



日本文化にチャレンジする姉妹都市の高校生



ンに分け、「美・遊・知」をテーマに新しい町づくりを行います。田園都市ゾーンである桑折町は駅前の区画整理、シビックセンター・町民文化会館などの文化施設整備事業、ショッピングセンター・中央公園の整備、駅前石橋線のシンボルロード化、町営住宅建設事業などを推進しながら魅力ある生活拠点を形成。そのための交通基盤として国道4号線、県道保原・伊達崎・桑折線の整備を促進します。

独自の将来都市像を掲げた『市街地整備基本計画』は、新しい時代における様々な変化に対応するためのビジョン。国際化・高齢化・情報化といっ



英語指導助手を招き国際交流フォーラム

た社会情勢の目まぐるしい変革に対応する町づくりを目指しています。文化・自然資源の保全と活用、文化環境の充実、都市活性化などの将来目標があり、具体的な重点整備プログラムでは、土地や建物を有効に生かして町の活性化を図っています。この新しい町づくりの先駆けとなった具体的事業が、第2次ふるさと推進事業の中で手掛けられた町民研修センター『うぶかの郷』開設と、『ふれあい公園』の整備。いずれも町民の憩いの場としての役割が大きく、特にうぶかの郷は温泉を利用した宿泊施設と研修施設を備え、産ヶ沢川の「水と緑豊かな溪流砂防事業」を導入し、親水公園の整備を推めていることにより、町内外を問わず利用者が相次いでいます。ふれあい公園は野外ステージや植樹などの整備で、常に美しい公園を実現。訪れた人が心から安らげるコミュニティの場として好評を博しています。この

Modernising The Town.

Bearing in mind the relationship between Koori and towns and cities around here and overseas, we are aiming towards the future.

We want to make our town a safe and comfortable place in which to live.



町民研修センター『うぶかの郷』

ように生活と隣り合わせになっていく町の身近な位置にあるものから、新時代に対応するスケールの大きな部分を切開いていきます。事業の大小にかかわらず、一つひとつが明日の桑折町を形づくる重要な要素。それらを十分に生かし、誰もがこの町で暮らすことを楽しく、誇りに思うような環境を整えていくつもりです。